

国内資源循環による脱炭素社会実現に向けたプロジェクト 「Fry to Fly Project」に参加します



横浜市は、国内資源循環による脱炭素社会実現に向け設立されたプロジェクト「Fry to Fly Project」に参加します。本プロジェクトを主導する日揮ホールディングス株式会社本社は、脱炭素先行地域である「みなとみらい21地区」に所在しており、同地区をはじめとした市内での活動を参加企業等の皆様と連携して進めて参ります。

Fry to Fly Project とは

個人や自治体、企業が SAF（持続可能な航空燃料）の原料となる、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加することのできる場を提供するものです。

Fry to Fly Project では、設立主旨に賛同した参加企業・自治体・団体が相互に連携しつつ、家庭や店舗等から排出される廃食用油の収集を促進し、さらに自治体との連携により廃食用油の SAF への活用に関する教育活動を実施するなど、日本国内において脱炭素化に向けた資源循環の促進に積極的に参加できる機会の創出を目指しています。

詳しくは、以下の特設 HP をご覧ください。

<https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>



FRY to FLY Project



「Fry to Fly Project」のシンボル

<SAF（持続可能な航空燃料）について>

SAF とは、Sustainable Aviation Fuel の頭文字をとったもので、日本語では「持続可能な航空燃料」と訳されます。国は 2030 年までに国内航空会社が使用する航空燃料のうち 10% を SAF に置き換えることを目標にしています。原料となるバイオマスや廃食用油、都市ごみなどの生産・収集から、製造、燃焼までのライフサイクルで、従来の航空燃料に比べて温室効果ガスの排出量の大幅な削減が期待できるとともに、既存のインフラをそのまま活用できる航空燃料です。

お問合せ先

温暖化対策統括本部プロジェクト推進課長 松下 功 Tel 045-671-2636